

「人々の健康を守り、光明を与える」を使命とし
誠心誠意、社会に貢献してまいります



代表取締役社長

柴 嘉亮

ごあいさつ

創始者、柴 昌範は「病に苦しむ人を助け、命を救うことほど尊い事業はない」との理念から胃腸薬 恵命我神散を創製し、老舗恵命堂を設立いたしました。

昭和8年の創業以来かかげてきた理想は、今日でも発売元株式会社恵命堂にそのまま経営の根幹として受け継がれ、着実に普及発展を続けてまいりました。

薬は病いを治し健康を維持・増進させるのが目的であるにもかかわらず、昨今、薬害による安全性が問題となり、あるいは治癒に至らず長年苦しむ人が多く、一部では社会問題化している現状にあります。

こうした中で弊社は安全性の高い生薬ガジュツを主剤とした胃腸薬「恵命我神散」を提供するとともに、病気の原因である、食・心・体・息・胃腸の誤りを正すことを第一とした「総合療法」を提唱。これの普及指導に真心を尽くすことを営業方針として大きな成果を上げ、その販売網は全国に拡大し、各界・各層で幅広く御支持をいただいております。

弊社は今後も、健康寿命の延伸とセルフメディケーションの時代に対応した健康づくりの為に、誠心誠意努力をいたすことで社会のお役に立つ所存でおりますので、お引立ての程よろしくお願い申し上げます。

「恵命我神散」の主剤 ガジュツとは

●江戸時代から使用されてきた生薬

ガジュツは、熱帯アジアを原産とするショウガ科植物の根茎で、中国民時代の生薬研究の書「本草綱目」にも上薬として収載され、古来より珍重されてきました。

わが国への渡来の歴史ははっきりしませんが、関ヶ原の戦いで猛将としてその名を馳せた薩摩藩主 島津義弘公が、慶長8年（1603年）、種子島家の16代当主 種子島久時公にガジュツの薬方を伝授したとの記録があります。以来、明治に至るまで屋久島・種子島の重要な産物（御禁製品）としての扱いを受けていたことが諸文献に明らかにされています。

その後、屋久島の民間薬として細々と使用されてきたガジュツは、昭和8年、創始者 柴昌範の手により胃腸薬「恵命我神散」の主剤として世に送り出されるに至り、ふたたび屋久島の重要な産物となりました。



「恵命我神散」のふるさと・鹿児島県
屋久島は、鹿児島市から約130km南の海上に浮かぶ山岳島。ガジュツやウコンなどの薬草を多く産出し、薬島（くすりの島）とも呼ばれています。

●ガジュツの薬効は精油にあります

屋久島・種子島のガジュツはその精油を多く含み、特にシネオール・カンファーなどの殺菌、防腐作用を持つ芳香成分モノテルペン類と、抗炎症作用を持つデヒドロクルジオンなどのセスキテルペン類を含有します。

産地による精油含有量は、日本産（1.13%）＞台湾産（0.51%）＞中国産（0.46%）の順で海外産のガジュツより日本産のガジュツの方が多く含みます。



花と苞（ほう）



根茎の断面



精油

「恵命我神散」のご紹介

生薬「ガジュツ」を主成分とし胃弱、胃もたれ、食欲不振等に効果がある胃腸薬です。



(散剤)

(細粒)

けい めい が しん さん
恵命我神散
第2類医薬品

- 屋久島・種子島産の生薬ガジュツが主成分(83%)の胃腸薬です。
- ガジュツは、地元農家との契約栽培で一貫生産しています。
- ガジュツ独特の芳香と苦味が胃の働きを高め、さらに消化を助けます。
- バランスよく配合された生薬の芳香が、二日酔・悪酔のむかつきなどの不快感を和らげます。

【効能又は効果】 食欲不振(食欲減退)、胃部・腹部膨満感、消化不良、胃弱、食べ過ぎ(過食)、飲み過ぎ(過飲)、胸やけ、もたれ(胃もたれ)、胸つかえ、はきけ(むかつき、胃のむかつき、二日酔・悪酔のむかつき、嘔気、悪心)、嘔吐

「恵命我神散」の成分とはたらき

●ガジュツ



<成分>セスキテルペン類
<はたらき>健胃、胆汁分泌促進
<使用部位>根茎

●マコンブ



<成分>アルギン酸
<はたらき>消化管粘膜保護
<使用部位>葉基部

●ウコン



<はたらき>矯味矯進
<使用部位>根茎

●ショウキョウ



<はたらき>矯味矯進
<使用部位>根茎

「恵命我神散」ができるまで

菰蓴(ガジュツ)の栽培

生薬ガジュツは熱帯アジアを原産地とするショウガ科植物であり、屋久島は温暖とはいえ寒冷に弱い菰蓴(ガジュツ)にとっては北限といえる栽培地です。夏季に最大限の成育をし、冬季は葉、茎の養分をすべて根茎に転流し休眠期に入ります。この厳しい成育条件の中で育った精油含量の多い菰蓴(ガジュツ)が恵命我神散の主原料です。



4月-5月



毎年4月に菰蓴(ガジュツ)の種根茎の植え付けが行われます。畑として表土が深く排水の良い圃場が選ばれ、5月下旬には発芽します。

9月-10月



菰蓴(ガジュツ)の地下茎が最も肥大する9月～10月にかけてが成育の最盛期です。

2月-3月



菰蓴(ガジュツ)の葉が枯れ、地中で根茎の充実が進み休眠期に入った2月～4月にかけてが収穫の時期となります。そして3月に収穫のピークを迎えます。

製造・出荷



原料生薬は空調された倉庫に保管。その後、製粉・混合・(造粒)工程を通してできあがった恵命我神散は充填後、量目・包数の厳重なチェックを経て出荷判定に合格した製品のみ出荷されています。

工場

清潔な環境を保つ、GMPガイドラインを遵守した工場。

厳密な工程管理のもと、恵命我神散が製造されています。



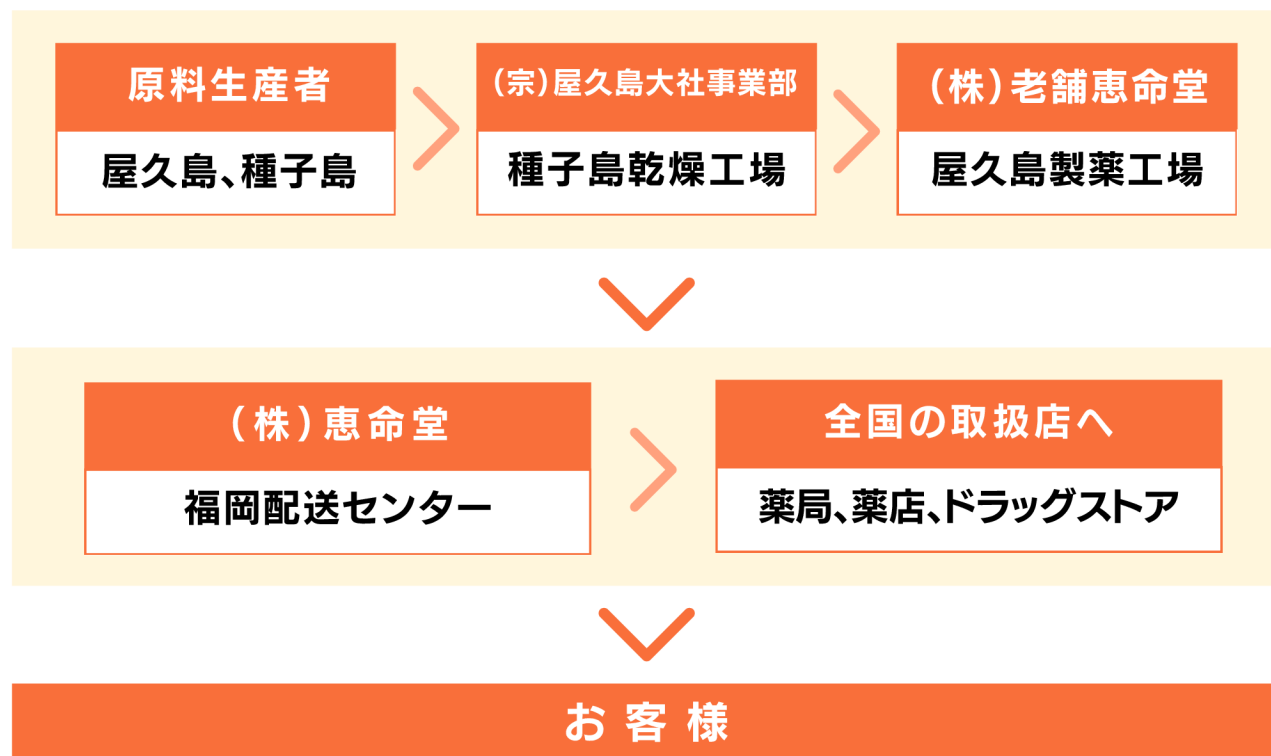
皆様のお手元に！

営業概要

創業当初は、全国に配置販売員を育てるという独特な方法で普及してまいりました。
その後、販路の拡大に伴い、薬局・薬店、ドラッグストア各社様と特約店契約を結ぶ直販方式を採用しております。
セルフメディケーションに適応したOTC医薬品恵命我神散に対する正しい認識と総合療法への理解を取引きの前提とし、薬局・薬店、ドラッグストア各社様との販売を拡充しております。

ご提供までの流れ

恵命我神散は原料の仕入れからお客様へご提供されるまで、一貫した体制を整えています。



優れた原料生薬の薬効を100%お届けしたい

恵命我神散の品質の特徴は、処方構成する基原植物の栽培から、生薬への乾燥調製、そして最終製品への製薬工程まで一貫体制で製造されているということです。私たちは「恵命我神散の品質は畑で決まる」として、後の最終製品までの工程は、薬効を完全な形で保持しながら、いかに加工するかということだと考えています。

最終製品への製薬工程は、自動化ラインとした製粉工程から始まり、混合・造粒（細粒剤のみ）・充填・包装工程へと進んでいきます。
この工程ごとに品質管理部門により医薬品GMP※に基づいた品質試験が行われます。
私たちはさらなる品質の向上のために、医薬品GMP※を適正に運用することはもちろんのこと、栽培試験の継続、品

質試験の充実を図り、今後も「優れた原料生薬の薬効を100%お届けしたい」をモットーに品質管理・製造管理に努めてまいります。

※GMPとは「Good Manufacturing Practice」の略で、製造所における製造管理、品質管理の基準のことです。

事業沿革

昭和08年	創始者柴昌範は、屋久島に自生しているガジュツを主剤とした胃腸良薬恵命我神散の製造許可を受け、12月 鹿児島市にて老舗恵命堂を設立し創業開始
昭和10年	日本海軍に納入開始
昭和13年	東京銀座に販売本部を置く
昭和17年	海軍指定工場となり全製品を海軍に納入、一般販売を停止し、販売本部を引き上げる
昭和20年	6月 鹿児島大空襲で工場・店舗消失、終戦となり製造販売を一時停止 10月 工場再建
昭和28年	東京に再進出、大田区馬込に販売本部を置く
昭和31年	販売本部を独立させ全国総販売元株式会社恵命堂を中央区日本橋茅場町に設立
平成02年	10月 恵命我神散S＜細粒剤＞を発売
平成15年	10月「恵命我神散」創業70周年記念式典開催
令和03年	株式会社老舗恵命堂（屋久島製薬工場）を子会社化
令和05年	4月 健康補助食品「WAYAKU」を発売

会社概要

社名	株式会社恵命堂
所在地	〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-24-2 八丁堀第一生命ビル3F TEL：03-3552-8611（代） FAX：03-3552-8634 アクセス 東京メトロ 日比谷線 八丁堀駅（A4出口）徒歩0分、JR京葉線 八丁堀駅（B1出口）徒歩3分
代表取締役社長	柴 嘉亮
創立年月日	昭和31年4月11日
営業目的	医薬品卸売販売・胃腸薬 恵命我神散の全国卸売販売
資本金	4,500万円
取引銀行	三井住友銀行 三菱UFJ銀行 きらぼし銀行
営業拠点	・東京本社営業部 〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-24-2 八丁堀第一生命ビル3F TEL：03-3552-8611（代） ・福岡営業所 〒816-0921 福岡県大野城市仲畑2-6-1 TEL：092-571-7911（代）
配送センター	福岡配送センター（福岡営業所内）
直営店	福岡大野城店（福岡営業所内）
従業員数	本社営業所合計 30名
製造子会社	株式会社老舗恵命堂 〒891-4206 鹿児島県熊毛郡屋久島町楠川1579-25 TEL：0997-42-3411